

福井県敦賀市にてベニトンボ *Trithemis aurora* (Burmeister, 1839) を発見

藤野 勇馬*

The first record of *Trithemis aurora* (Burmeister, 1839) (Odonata: Libelluloidae) from Tsuruga City, Fukui Prefecture.

Yuma FUJINO*

(要旨) 筆者は福井県敦賀市鞠山の鞠山川において2025年7月10日、ベニトンボ♂1個体を目撃、撮影した。これは福井県を含む北陸地方における初めての記録であり、ベニトンボの日本海側における北東限記録と考えられる。

キーワード：ベニトンボ，トンボ目，敦賀市

はじめに

ベニトンボ *Trithemis aurora* (Burmeister, 1839) はインドから東南アジア，台湾，中国，日本にかけて生息するトンボで，国内では1950年代に初めて鹿児島県薩摩半島の池田湖および鰻池に生息していることが報告された(朝比奈, 1956; 馬場, 1956)。その後，1980年頃から台湾以南に分布する個体群に由来すると推定される集団が急速に分布を北上させ，1980年代には南西諸島に，1990年代には鹿児島県の池田湖周辺以外の地域にまで分布を拡大した(江平, 2023)。

分布はその後さらに拡大を続け，2022年4月に出版された「日本のトンボ 改訂版 第2版(尾園ほか, 2022)」では19府県(三重，大阪，兵庫，奈良，和歌山，岡山，山口，徳島，香川，愛媛，高知，福岡，佐賀，長崎，熊本，大分，宮崎，鹿児島，沖縄)に定着してい

るほか愛知県での飛来記録があるとされているが，同図鑑出版後には広島県(中井ほか, 2022)，京都府(村木・西村, 2023)，神奈川県(田口, 2024)，静岡県(油井ほか, 2024)，滋賀県(村木・落合, 2024)，山梨県(沓間ほか, 2025)の6府県で新たに記録されたほか，2025年7月には島根県でベニトンボが発見されたことが山陰中央新報により報道されており(山陰中央新報社, 2025)，今回の記録を含めるとこれまでに神奈川県以西の27府県で記録されたことになる。

確認状況

ベニトンボを撮影したのは福井県敦賀市鞠山の鞠山川である。2025年7月10日17:49から17:52にかけて，ベニトンボ♂1個体およびショウジョウトンボ *Crocothemis servilia mariannae* Kiauta, 1983 ♀1個体を確認した。



図1. 福井県敦賀市で撮影されたベニトンボ♂ (2025年7月10日 鞠山川)

*NPO法人 中池見ねっと 〒914-0005 敦賀市樫曲79号奥堀切
Nakaikemi-Net, Okuhorikiri 79 Kashimagari, Tsuruga city, Fukui 914-0005, Japan

同地点はガマとヒメガマが繁茂する休耕田に隣接したコンクリート3面張りの水路で、河口から500 mほど上流にあたる。その後、7月11日、7月12日にも観察を行ったが、ベニトンボは見つからなかった。

福井県敦賀市では2022年に、分布が北上していることで知られるタイワンウチワヤンマ *Ictinogomphus pertinax* (Hagen in Selys, 1854) が確認されている(高橋・和田, 2024)。高橋ほか(2025)はタイワンウチワヤンマの分布拡大について「近畿・山陰方面などから徐々に分布域を拡大して侵入したわけではなく、これらの既知の分布域やその周辺(兵庫県・京都府の日本海沿岸地域等)から散発的に飛来した個体群の子孫が、冬季気温や水温、水域の環境などにおいて本種の生息条件を満たした敦賀市周辺(特に半島沿岸部)の池沼に定着するに至ったものと考えられる」と指摘している。今回見つかったベニトンボも福井県嶺南地方など敦賀市に隣接する地域で見つかっていないことから、周辺地域から徐々に分布を拡大したというよりも散発的に飛来した分散個体が発見されたのではないかと考えられる。タイワンウチワヤンマは敦賀市での生息が確認されてから現在まで継続的な発生が確認されており、今後ベニトンボが定着するかどうか注目される。

謝辞

本稿の執筆にあたり、和田茂樹さん(日本トンボ学会)には県内でのトンボの分布状況や文献について重要な情報をご提供いただいたほか、原稿執筆について多大なアドバイスをいただいた。また、出口翔大さん(福井市自然史博物館)には特別の計らいをいただいた。この場を借りて感謝申し上げます。

参考文献

- 朝比奈正二郎, 1956. 日本におけるベニトンボの発見. 新昆虫, **9**(1), P51
- 馬場金太郎, 1956. 10月下旬の鹿児島県のトンボ. 新昆虫, **9**(1), 51-52.
- 江平憲治, 2023. 鹿児島県のトンボ・解説編. 南方新社, 417p.
- 沓間妙子・尾園 暁・二橋 亮, 2025. 山梨県にてベニトンボを初記録. 月刊むし, (659), 55-56.
- 村木明雄・西村正裕, 2023. 京都市宝ヶ池におけるベニトンボの記録. Gracile, (82), 44-45.
- 村木明雄・落合修一, 2024. 滋賀県初記録のベニトンボ-他府県の分布状況(2021年~2022年)の報告を含めて-. Gracile, (83), 1-4.
- 中井 貢・池田誠慈・佐藤祐輔, 2022. 竹原市におけるベニトンボの観察記録. 広島虫の会会報 **61**, P78.

尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮, 2022. ネイチャーガイド 日本のトンボ 改訂第2版. 文一総合出版, 531p.

山陰中央新報社, 2025. 鳥根県西部に南方種ベニトンボ 本州の日本海側で初確認. 山陰中央新報デジタル, 2025年7月19日. <https://www.sanin-chuo.co.jp/articles/-/822882> (2025年12月30日閲覧).

田口正男, 2024. 横浜市内でベニトンボを確認. 昆虫と自然, **59**(8), 38-39.

高橋 整・和田茂樹, 2024. 福井県からタイワンウチワヤンマを初記録. 月刊むし (646), P6.

高橋 整・高橋 忠・高橋聡香・高橋橙司・和田茂樹, 2025. 福井県におけるタイワンウチワヤンマの追加記録. Aeschna, (61), 7-11.

油井雅樹・森田倫太郎・二橋 亮, 2024. 静岡県でベニトンボを初記録. Tombo, **67**, 114-115.